



皆さんも知っているはず

こんなに迷惑がかかっています

放し飼

犬を放し飼いにすることによって生ずることは、ごみ集積場や畑を荒らすだけではありません。人を追い掛けたり、かみついたりということもあります。これはテレビや新聞だけの話ではありません。市役所にもこういった苦情がたくさん寄せられています。自分が被害にあったことを考えたら、放し飼いななど絶対にできないと思うのですが。街の中でも

首輪をつけ、うろうろ歩き回っている犬をよく見かけます。

ふん公害

犬のふんがきれいだと思っている人などいません。春先になると特に目立ちます。まだ雪の残る公園や道路などには、いたる所に穴が空き、その穴のほとんどには犬のふんがあります。街の美観を損ねるだけでなく、衛生的にも決して良いものではありません。

ふん公害はモラル以前の問題です。生きものを飼う場合、後始末までの面倒をみれてから始めて飼うのが当たり前のことと思うのですが、一向になくなりません。

鳴き声

朝早くから天に突き刺さるような犬の声。また、散歩している犬の脇を通る度に犬にほえられたり、何も変わった様子がないのに犬のほえる声が聞こえてきたり、といったことがあります。これでは赤ちゃんが昼寝の邪魔をされるだけでなく、大人にとっても決して

気持ちのいいものではありません。こういった「むだ吠え」は、しつけをしつかりすることで直すことができるはずなのに。

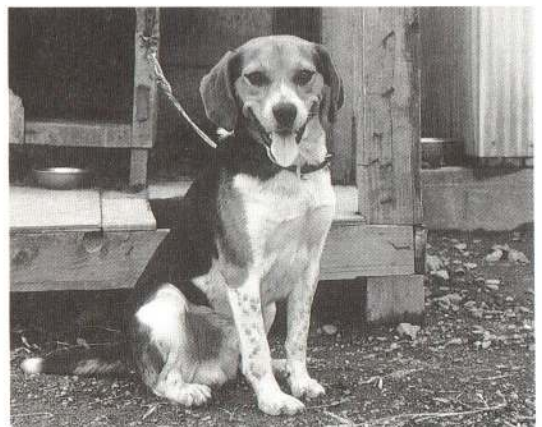
野良犬

もともと野良犬だった犬はいないはず。「子犬が生まれたけど、これ以上飼えない」とか、「面倒をみれなくなった」といって、だれかに捨てられた犬が野良犬になっているのです。子犬が生まれて困るなら、避妊（去勢）手術という方法もあるのに。

野良犬は飼われている犬より性質が荒いいうえ、繋がれていないの

犬と楽しく暮らすために

犬の習性をよく知ること



で、放し飼いにされている犬以上の被害があります。この野良犬を作り出したのもやはり飼い主です。

嫌いな人にとっては野獣

「ごみは分別して指定された曜日、時間に」、「自動車は所定の駐車場へ」など、私たちが生活するには様々なルールやマナーといった制限があります。それと同様に、明文化されていなくても犬と暮らしていくためのルールやマナーがあります。愛くるしい表情を見せてくれる

犬。でも嫌いな人の目には不届きこの上ない野獣と映ることも。飼主の育て方のせいで他人に迷惑をかけたといつて、犬に危害が及ぶことがあつてはなりません。危害が犬に及んでは本当に迷惑するのは犬なのかもしれません。彼らがいづつまでも私たちに笑顔を見せてくれるよう、犬の特性や習性を知って、責任を持って育て、守ってあげることが大切です。